

# 音響可聴化システムの高度化について

上森 弘恵<sup>1)</sup>

## A Study on the Auralization System

Hiroe Uwamori<sup>1)</sup>

### ■ 要 旨 ■

建築音響施設では、建物が完成するまで室内の音を把握する事は容易ではない。特に、施設の運用に影響する響きと明瞭度は感覚的な領域でもあり、確認は困難となる。事前に施設の管理者に室内の音響性能の確認を得る事は、施設の適切な運営の上からも重要である。筆者らは、1996年に現場での運用も可能な可搬型の音響シミュレータを開発し、設計・施工段階における音響性能について、実音での確認を可能とした。今回、システムを大幅に更新し、音響設計指標としての解析機能の拡大と実音での可聴化精度の向上を行い、実際の施工現場での適用でも高い評価を得た。本報ではシステムの更新部分の紹介とシステム精度の検証実験結果について報告する。

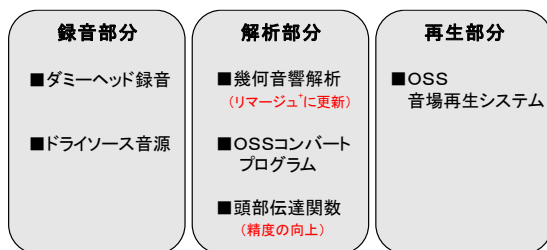


図-1 システム全体構成と更新内容

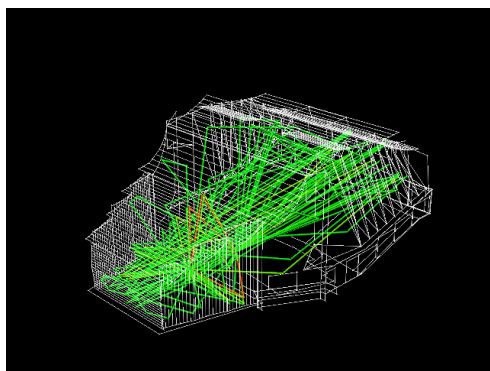


図-2 音線経路図(4次反射)

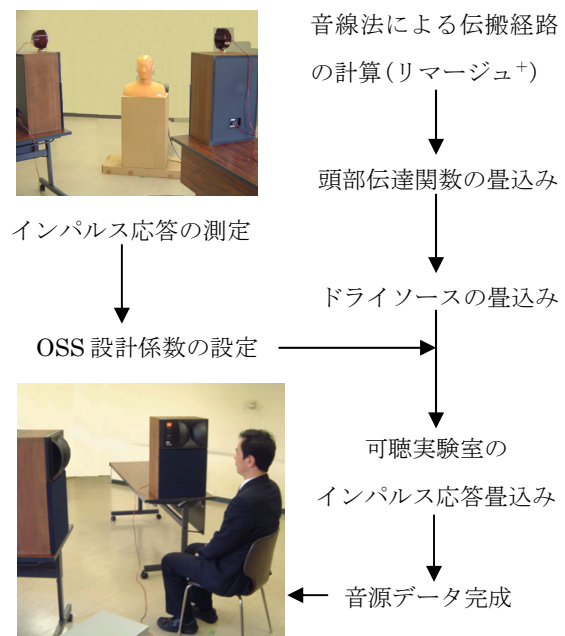


図-6 可聴化システム構成

1) 本社 建築設計部